



沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology



平成23年度入学式の模様

目次

1. 校長より (北部地域の振興への貢献—教育と産業の活性化—).....2	11. 保健室より.....11
2. 総務主事・教務主事あいさつ.....3	12. 地域共同テクノセンター活動紹介.....12
3. 学生主事・寮務主事あいさつ.....4	13. 学生会より.....13
4. 後援会長・事務部長あいさつ.....5	14. 寮生会より.....14
5. 第1学年主任・第2学年主任より.....6	15. 留学生紹介.....15
6. 学科長より.....7～9	16. サマースクール開催.....16
機械システム工学科・情報通信システム工学科	17. オープンキャンパス参加者数の推移と参加者の様子.....17
メディア情報工学科・生物資源工学科・総合科学科	18. 平成23年度
7. 専攻科長より.....9	沖縄県高校総体結果一覧.....18
8. J A B E E 受審で見えてくるもの.....10	九州沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会結果一覧...18
9. 学生相談室より.....10	19. 平成24年度からの進級要件の変更について.....19
10. 図書館より.....11	20. 平成23年度人事異動について.....19
	21. 平成23年度(後期)行事予定表.....20



北部地域の振興への貢献 - 教育と産業の活性化 -

校長 伊東 繁

先般、第48回九州・沖縄地区高専体育大会が開催され、女子バスケットボールと、女子テニス(団体の部)が見事優勝しました。また、水泳競技も全国大会出場を果しました。そのほかにも惜しいところで優勝や全国大会出場を達成できなかった競技も多くありました。

体育大会は、学業への取り組みとともに日々心身を鍛練し、大会の開催をもって高専相互の親睦を図ることを目的として、毎年開催されております。結果を残せず涙を吞んだ学生もいましたが、それぞれの力を精一杯出し切って、素晴らしい活躍を見せてくれました。

本校では、授業以外に部活動や各種コンテストへの参加、体育祭や文化祭、地域イベントへの参加など、様々な学校行事があります。学生諸君は規則正しい生活と自律した精神で、持てる時間を有効に活用して、あらゆることにチャレンジし、自らの可能性を切り拓いてほしいと願っております。

さて、今年3月11日に東日本大震災が発生し、福島第一原子力発電所の事故による影響も、今なお各地に広がっています。被災地が一日も早い復旧復興を遂げ、安全で暮らしよい社会環境が実現できるよう、経済界、産業界、そして教育界も一丸となって、勇往邁進しなければなりません。

もとより高等専門学校の使命は、社会への貢献と人材育成にあります。全国に配された国立高等専門学校は、技術シーズの創出や新しい産業の開拓に努め、地域に根差した特色ある学校活動を行ってまいりました。本校は沖縄県北部地域に位置し、他県にない亜熱帯気候と豊富な生物資源に恵まれた特異な環境にあります。これまでの国や県が策定した振興策により展開されてきた事業に加え、環境を活かした地域住民が興す新たな事業から、活力ある地域作りが実現できるよう、是非、本校の技術シーズや人材を活用いただきたいと考えております。

また、将来にわたって持続的な経済発展を遂げるためにも、人材の育成は肝要であります。すでにホームページなどでお知らせしていますが、本校から公募提案していた「ALL やんばる 科学と教育のまちづくり」が、独立行政法人科学技術振興機構の『科学コミュニケーション連携推進事業「地域ネットワーク支援」』へ採択されました。名護市、やんばる(北部地域)の資源を活用し、お年寄りや離島の小・中学生などに対する科学への興味関心を高める機会の提供や、サイエンスコミュニケーターの育成を通じて科学ネットワークを構築する事業で、平成23年度は名護市・伊是名村・伊江村の連携自治体や各機関の協力を得て、「科学イベント、実験教室等の開催や離島地域への科学支援、サイエンスランドのオープン等」の連携事業を推進していきます。この事業は今後3年間継続され、北部すべての市町村へと連携の枠を拡げていく予定です。科学の楽しさを知る良い機会であり、児童・生徒・学生にとっては自分の進路や将来を多角的にとらえる契機にもなると思います。

これまで、各地への出前授業や地域共同テクノセンターの活動を通し、地域住民の皆様や地元企業との交流も盛んに行われてまいりましたが、今回の採択を機に、その活動がさらに伸展するものと期待しています。

今後共、本校の学校活動に関し、より一層のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



総務主事あいさつ

総務主事 松栄 準治

後援会、協力会および地域の皆様、台風来襲の多い年になりましたが如何お過ごしでしょうか。平素より沖縄工業高等専門学校の教育活動に対しご理解とご協力を賜り、この場をおかりして御礼申し上げます。昨年度に引き続き総務主事を拝命致しております機械システム工学科の松栄準治です。

総務主事は、校長を補佐して教育、学生指導および寮務に属さない諸々の仕事を担当しています。例えば、昨年度および本年度と連続する外部機関による評価は重要な業務になります。昨年度の高等専門学校機関別認証評価の受審結果は、基準を満足しているとの評価を得ることができました。ご協力を頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。本年度は、来る11月上旬に行われる予定の日本技術者教育認定(JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education) 受審に向けて鋭意準備を進めている所です。この認定を受けますと沖縄高専が推進する技術者教育が、国際基準に則った教育であると認められ、専攻科修了生の海外活動も有利になります。一例として、米国技術者資格(PE)や英国技術者資格(CE)などの受験資格も認められるようになります。

学生の国際感覚を養うため海外教育機関との交流を推進することも業務の一つになっています。この一年間に台湾、ノルウェーおよび中国の3教育機関と交流協定を締結し、従来から締結している教育機関をふくめ海外から学生を招聘し、本校学生との交流を進める予定であります。

また、昨年7月末に「沖縄高専 意見箱」(<http://portal.okinawa-ct.ac.jp/>)を設置致しましたが、本制度をご利用頂き、皆様からの沖縄高専教育活動に対するご意見をお寄せ頂きますようお願い申し上げます。このためにも沖縄高専の色々な行事(保護者懇談会、公開授業週間、オープンキャンパス、体育祭、高専祭、後援会総会、高専フォーラムなど)に是非ご参加頂き、沖縄高専を感じ、教職員との交流を深めて頂きますようお願い申し上げます。



公開授業週間



教務主事あいさつ

教務主事 平山 けい

1、2期生では100%であった就職率を、残念ながら3期生では達成することができませんでした。リーマンショック以来の世界的な不況の影響もありますが、学生の皆さん自身の将来に対する目標設定やそのための努力のあり方も大きく影響しているのではないのでしょうか。卒業後の自分をきちんと描き、自分の夢や希望を実現するためには、低学年のうちから目標を持って日々挑戦していなければなりません。クラスの中で磨き合いがなければ同じ学び舎で学んでいる意味はありません。最近の学生の傾向を見ると、授業中にも関わらず寝ている、携帯で遊んでいる、という学生が非常に目立ちます。先日行われた公開授業週間に参加していただいた中学生や保護者からのアンケートでは「寝ている学生が多いのにビックリした」という感想が多々寄せられていました。卒業生から来る便りには、必ずといっていいほど「卒業して初めて、沖縄高専の環境がどんなに恵まれていたかを痛感した。」ということが書かれています。皆さんは、この学校の環境の良さを最大限に活用し、学生として常に自分を振り返り、自分や周りを高める努力をしていきましょう。まだまだ若い沖縄高専です。先輩方が作った道を後輩が踏み固め、確固たる道としてさらに後輩に伝えて行く使命を在校生の皆さんは担っています。19ページにあるように、平成24年度から教育の質の保証を目的として、本校の進級要件が厳しくなります。学生として、自身の行動には責任を持ってください。3月の進級判定会議の決定で涙を見せてもそれでは遅すぎます。学び舎が学び舎としての役割を果せるよう教職員一丸となって学生をサポートして行きます。後は、学生1人ひとりの目標意識、学ぶ心次第です。震災の影響を受け、日々の生活がままならないまま必死で学んでいる児童・生徒・学生が日本国内に大勢いることにどうぞ思いを馳せてください。自らの道は、自分で一歩ずつ切り拓いていかなければなりません。

保護者の皆様には、どうぞ厳しく温かい目で本校の学生を叱咤激励していただけるよう御願致します。





学生主事あいさつ

学生主事 眞喜志 隆

今年度は、九州沖縄地区高専体育大会硬式野球競技が、本校を担当校として、7月15日から18日の日程で名護市営球場および宜野座村野球場で行われました。今大会は、台風6号の影響のため順延や試合会場の変更もありましたが、野球部員や学生会を中心とした補助学生のがんばりと、関係教職員の尽力で無事開催することができました。後援会の方々にも、参加各高専への歓迎のサーターアンドギーを配布いただき、ありがとうございました。硬式野球では、残念ながら沖縄高専は2回戦で惜敗いたしました。女子バスケット及び水泳競技で全国大会への出場を勝ち取っております。

今年度は、前期の間で悲しい出来事が起きております。二輪車の事故で1名の学生が亡くなっており、一昨年度とあわせてこれまでに2名の学生が交通事故で亡くなっております。自動車や二輪車の運転については、定期的な交通安全講習会等を通して注意喚起を行っており、今後もより一層力を入れて行っていくこととしております。特に、二輪車については、使用する学生全員の面談を行う予定であります。各ご家庭におかれましても、二輪車の使用だけではなく、交通安全についてお話しくださるようお願いいたします。また、寮での事故についても、全学を挙げての事故防止対策と学生のケアに取り組んでおりますので、ご心配のことがあればご相談ください。

生活指導面に関しては、特に、低学年でのあいさつがおろそかになっているように感じております。これについては、学生会を中心とした風紀活動を通して、学生の自主活動の形で改善していくことを考えております。ご家庭でのご指導・ご助言をよろしくお願いいたします。



高専体育大会（硬式野球）



高専体育大会（女子バスケットボール）
九州沖縄地区大会優勝・全国大会準優勝



寮務主事あいさつ

寮務主事 網谷 厚子

本校は今年で創立8年目となり、沖縄高専学生寮の歩みも8年目となりました。学生がすべてそろい、学生寮の入居率もほぼ100%（静養室を除き）、全国の高専で3番目、女子寮生数では全国ダントツトップの学生寮となりました。

8年目となりますと、毎日寮生が使用している洗濯機・乾燥機などの電化製品も、故障が多発するようになりました。寮生たちが毎年納めてくださっていた（いる）寮管理費で、今年度は順次新しいものにしていくよう、検討しています。保護者・卒業生のご理解なにとぞよろしくお願い申し上げます。

また、予想される限りの事故に備えるための、寮生の指導、施設・設備の整備を進めていきます。防犯カメラの増設、新たな転落防止柵の設置などで、未然に防ぐ手立ても行います。

大きな災害が起こった場合を想定した対策・訓練を充実させ、備蓄なども行っていきたいと思っております。

男子寮9階・女子寮8階の高層の学生寮、第1学年から専攻科第2学年、各国の留学生まで、すべて同じ「門限」「規則」で運営しています。そこには様々な難しい問題が生じてきますが、学生寮のこうした建築の仕組み、規則をよく理解し、協力できる学生の入居を希望します。すべての寮生が楽しく、充実した生活が送れるよう努力します。



学生寮居室内風景



後援会長あいさつ

後援会長 中本 正泰

沖縄高専は、昨年度、第3期生の本科卒業並びに第1期専攻科生の修了により、本科・専攻科揃って卒業生を輩出いたしました。

卒業生の進路を見ますと、厳しい経済・雇用環境のなかであって、県内・県外企業をはじめ大学及び大学院への就職・進学を果たし、技術者・研究者として、それぞれの進路を切り拓いております。

また、昨年度は、テニス部の全国大会出場やMDDロボットチャレンジ大会準優勝、高専英語スピーチコンテスト全国大会出場等、課外活動の面でも目覚ましい活躍を行っております。

こうした活動の成果は、学生の皆さんはもとより、教職員並びに会員の皆様のご支援・ご尽力の賜であると受け止めており、深く敬意を表しております。

後援会は、沖縄工業高等専門学校における教育・研究事業を支援するとともに、会員相互の交流・連携を図ることを目的として活動を展開しており、今後とも、充実した取り組みを行っていく必要があると考えております。

後援会各支部では、会員同士の交流や卒業生との意見交換等それぞれに活動を行っており、学生生活や進学、就職など保護者同士の有益な情報交換の場ともなっております。

支部会活動に対し、多くの保護者の皆様の参加をお願いいたしますとともに、『明るく、楽しい、元気のある』後援会活動のため、皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、後援会活動に対するご意見ご要望がございましたら、沖縄高専後援会事務局 (0980-50-0133) までお願いいたします。



後援会総会



事務部長あいさつ

事務部長 川満 信男

目標に向かって

昨年4月に伊東校長と共に赴任し、今年2年目に入っております。昨年は懸案事項として5項目(①専攻科棟の増築、②機関別認証評価の受審、③日本技術者教育認定機構(JABEE)による技術者教育プログラムの受審に向けての準備、④温室効果ガス排出抑制に有効性及び実効性のある「エコアクション21」の認証・登録、⑤入学者の確保)を掲げ日々努力して参りましたが、全部実現することは出来ませんでした。

平成23年度の校長が掲げた「本校の基本方針」は以下の6項目です。

- ① JABEE 認証評価の獲得
- ② 入学者受験倍率の向上
- ③ 本科卒業生の全員進学・就職
- ④ 専攻科入学・卒業
- ⑤ 北部地域産学連携の強化
- ⑥ 広報活動の強化

特に②入学者受験倍率の向上に於いては、一期、二期生の頃は4倍もあった倍率も最近では2倍を割っているのが現状です。

よって、本年度から、校長、教員、事務局が一体となって優秀な学生を確保するため、中学校を訪問し、本校の現状を説明するとともに、各市町村教育委員会を通じて広報活動等も行っています。

以上、本校の基本方針実現に向けて教職員一丸となって日々努力したいと考えておりますので、皆様方のご協力よろしくお願い致します。



授業風景



第1学年主任より

第1学年主任 成田 誠

入学当初は不慣れな場での不安と緊張のもとでの経験(親元を離れての共同生活、自由を与えられたと同時に果たさねばならない自律、自己管理と自己責任)に戸惑いもあったかと思いますが、この短期間でそれも払拭されつつあるように感じます。

前期中の大きなイベントとして体育祭がありました。入学後の非常に短い期間で彼らなりのチームワークを発揮し、仲間との交流・勝利への意思など有意義な時間を過ごすことができたかと思います。後期には高専祭があり、その準備は現在進行中ですが、再び素晴らしいイベントとなることを期待します。

一方、徐々に欠席・欠課が増加してきております。原因の1つは「度の過ぎた緊張の緩和」と言えますので、今一度「適度な緊張感」を持ってもらいたい。もう1つは学習が思うようにいかない、良い結果が出ないことによる「失速・挫折」です。ここで諦める訳にはいきませんので、後期に向けて奮起を願います。

学生諸君が持っている能力が最大限引き出され、沖縄高専や日本、世界に貢献できますよう、今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



体育祭の様子



第2学年主任より

第2学年主任 澤井 万七美

入学以来、あっという間の1年間が過ぎていきました。2年生は、「先輩」としての新たな出発の年でもあります。学生会や寮生会で、役員・指導寮生という役職に就き、自覚を新たにしている学生も多いようです。また、高専体育大会の野球競技の主管校としての諸業務に、数多くの学生が補助員として活躍してくれました。

2年生への指導については、勉学に加えて、学科別LHRなどにおいて上級生との交流の場を持つなど、次年度以降の専門学科への橋渡しを重視しています。積極的にいろいろな人と関わりながら、自分の将来像を模索をし始めている姿勢が少しずつ生まれてきています。

夢を持ち、常に友人たちと互いに自己を磨きあう— そのような学びの場を、自ら作り出していてくれるものと信じています。

保護者の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育にご理解ならびにご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



技術者に必要な国語教育



授業風景



機械システム工学科

機械システム工学科長
宮田 恵守

機械工学はあらゆる産業の基盤となる技術分野です。どの産業も機械の助け無しには成り立ちません。本学科の卒業生が活躍できる産業分野は、非常に幅が広く、機械や自動車はもちろん、鉄鋼、電力等のエネルギー産業、化学、さらには情報から食品まで、ほぼ全ての産業分野に及んでいます。昨年度は卒業生44名中28名が就職いたしました。新日本製鉄や三菱重工業、沖縄電力など日本を代表する企業に就職しています。また、16名はさらに勉学を深めるため、本校専攻科や大学3年次編入へ進学しています。

機械システム工学科では、機械の要素工学を基盤とし、さらに設計・生産・開発に必要な知識・技術を統合した教育を行っています。金属やプラスチック、セラミックといった様々な「材料」の選定や加工から、「部品」の設計、さらにそれらを組合せて高度な機能を持つ「システム」を構築するまでの、「工学」的な手法を学びます。専門教育は第1学年から始まり、基礎的な内容から、第5学年での卒業研究を通した高度な応用まで、段階的に学習を進めてゆきます。これらの教育に利用する設備も、レーザ加工機・マシニングセンタ・大規模CAD・CAM・CAE等、たいへん充実しています。

現在本学科では、教員13名・技術職員4名で講義・実習を担当しています。地域の産業界ともより連携を深め、よりよい高専・学科を創るべく教職員一同努力していきたいと考えています。



オープンキャンパス



情報通信システム工学科

情報通信システム工学科長
高木 茂

コンピュータ、インターネット、携帯端末などが発達し、社会生活や産業の基盤となっていることは周知の事実です。このため、情報処理技術者が広く求められています。2011年3月11日の東日本大震災後、沖縄県内にデータセンターの設置を検討したいという問い合わせが急増しているようです。東南海地震の発生が危惧されるなかこの動きは強まると予想されます。また沖縄県では情報通信産業特別地区制度、沖縄IT津梁パークにより、県内への情報通信産業の誘致を進めています。この動向から情報系の重要性がさらに高まると予想されます。

情報通信システム工学科は、情報処理ハード・ソフトを理解し、情報化社会発展の中核となる技術者（ITコアエンジニア）を育てることを目的としています。このため、コンピュータの動作原理、コンピュータを実現する回路やLSIの作り方、コンピュータを動かすソフトウェア、音声・画像の処理法、通信やネットワーク技術、など幅広い分野の技術や知識を実践を通じて学びます。

これら技術をしっかり学んだ学生の未来は開けています。これまでに1、2、3期生が卒業しました。進学と就職はほぼ半々です。1、2期生は就職率、進学率とも100%でした。3期生は進学率は100%でしたが、就職率は残念ながら92%でした。何をしたいという目的意識をはっきり持てない学生は、就職や進学で苦労しています。東日本大震災の影響もあって、就職環境は非常に厳しい状況です。そのなかで、4期生の就職内定率は91%までできています。

5年間でストレートに卒業できた割合は85%程度です。低学年から目的意識（目標）を持つことが重要です。5年間における各年度では以下のようなことに注意しましょう。

- 1年 効果的な勉強法、自主的な勉強法を理解し、実践できるようにする。
- 2年 自我について考える。
社会が求める人材、将来計画について考え始める。
- 3年 将来計画に基づき、具体的な行動方針を決める。
企業種、労働条件について理解を深める。
研修旅行で県外の様子、企業イメージを把握する。
- 4年 社会人マナーを理解し、実践できるようにする。
インターンシップで企業内容と、求める人材について理解する。
業種、職種、待遇、勤務地を考慮して就職先を決める。
進学する場合には、最終進路を踏まえて、専攻科、学部や学科を決める。
- 5年 就職・進学試験を受験する。
不足している知識について補強する。



メディア情報工学科

メディア情報工学科長
角田 正豊

今日コンピュータは公共機関、学校やビジネスの場で使用されるだけでなく、家電製品や自動車などにも組み込まれています。これらのコンピュータはネットワークで結ばれ、世界規模で瞬時に情報共有を行っています。メディア情報工学科ではこのような社会で、コンピュータを使いこなせる技術者の育成を目指しています。本学科では、コンピュータのしくみやコンピュータを働かせる基本的な技術を低学年で学びます。この基本的な技術を土台として、コンピュータを応用した「ロボットや身近な機器をコンピュータで動かす技術」、「コンピュータネットワークのしくみや情報セキュリティ技術」、「画像や映像をコンピュータを用いて処理加工する技術」の3つの分野の応用技術を高学年で学びます。本学科では学校での通常の教育のほかに、情報処理技術者などの資格取得やパソコン甲子園などのコンテストへのチャレンジも積極的に支援しています。

メディア情報工学科のタンスリヤボン先生が在外研究のため、来年3月まで1年間タイ国に滞在されます。タイ国の大学と本校との教育・研究活動の連携も研究テーマの一つになっていますので、本学科の学生の国際的な活躍の道が開かれることを期待しております。

メディア情報工学科からこれまで1期、2期、3期生が卒業しました。彼らの卒業後の進路は約7割が就職、約3割が進学を選択しました。これは学生自身が就職の道を選択する傾向が強いということで、本学科を卒業すると進学が難しいわけではありません。学生達が本学科での5年間の生活で、社会で活躍できる自信ができたことの表れと考えています。これからも社会で実践的に活躍できる技術者の育成に努めてまいります。ご理解とご協力を引き続きよろしくお願いします。



メディア工学科の授業風景



生物資源工学科

生物資源工学科長
三枝 隆裕

夏目漱石の『草枕』は、有名な次の文章から始まります。

山路を登りながら、こう考えた。
智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。
意地を通せば窮屈だ。
とかくに人の世は住みにくい。

現代社会は、今回の東日本大震災、原発事故をはじめ、食糧やエネルギー不足、環境汚染問題、医療問題、雇用問題、ストレス、高齢化社会など多くの問題を抱えています。これらの問題の一端を解決するため、生物資源を利用したエネルギー生産、食糧や有用化学物質の生産など、生物の持つ無限の可能性を発揮させ人類に役立てる新しい技術開発はますます必要となってきました。

生物資源工学科では、沖縄の亜熱帯性気候と言う地の利を生かし、この亜熱帯性植物や動物資源の活用技術、微生物や酵素、細胞による有用性物質生産などのバイオテクノロジー技術、並びに新規の食品や医薬品原料の開発力を培う教育を行っています。また、実践的な食品などの製造・生産管理技術を習得し、加えて環境に配慮した廃棄物処理や資源再利用ができる人材の育成を進めています。さらに、これら高度な技術の習得だけではなく、人間性、協調性、創造性、国際性を培い、企業や公的機関の中心人物となって成長させ得る人材作りにも力を注いでおります。

今年は、世相を反映しまして就職、進学とも一層厳しいものとなっておりますが、全力で立ち向かい内定や合格を日々獲得している所であります。これからも、皆さまのご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



生物資源工学科の授業風景



総合科学科

総合科学科長
小池 寿俊

ご存じの通り沖縄高専には4つの専門学科があり、すべての学生はそのいずれかに属しています。我々の総合科学科については、学校要覧や過去の高専だより等によってご存じの方も多いと思いますが、この原稿で改めて説明させていただきます。

沖縄高専の授業は一般科目と専門科目に大別されます。一般科目は専門科目に必要な共通の基礎や社会人に求められる教養を身につけるために設置された科目で、大学の一般教養科目や普通高校の科目に相当します。総合科学科は主にこの一般科目を担当する教員の組織で、現在18名の教員がおります。なお、この組織自体を一般科目と呼称する高専も少なくありません。

本校の一般科目の必修科目は、大きく英語、国語、数学、社会科学、自然科学、健康科学に分かれています。これ以外にも外国語や芸術科目等の選択科目も含め、多くの一般科目がありますが、そのすべてを総合科学科教員が担当している訳ではなく、専門学科や非常勤講師の先生方にもご協力いただき授業を行っております。

一般科目は低学年を中心に、いわゆるくさび形に配当されていることから、総合科学科教員の特徴として、低学年の学生との距離が近いことが挙げられます。実際1、2年生の学級担任、副担任は総合科学科教員が担当しています。

総合科学科のもう一つの特徴は女性教員の多さです。18名のうち6名が女性教員で、これは全国の高専の中でも最も高い割合だと思われます。今年度、数学の武田先生が育児休暇を取得されています。

その他の教員の現況としては、人事交流制度により2年間長岡技術科学大学に行かれていた物理の森田先生が、4月から戻ってこられました。その間物理の授業をお願いしていた宮城先生はこの3月で任期満了となりました。また、やはりこの3月末で健康科学の飯田先生が本土の大学に転出され、後任として和多野先生をお迎えしました。

このように顔ぶれも少し変わりましたが、総合科学科の教員一同、引き続き一般科目を中心として教育に尽力して参ります。低学年の保護者の皆様とは特に接する機会も多いかと思いますが、どうかよろしく願いいたします。



専攻科長より

専攻科長
知念 幸勇

平成22年度から平成23年度にかけて、沖縄高専専攻科においては、いくつかの大きな出来事がありました。一つは学位授与申請の試験に1期生修了生27名全員が合格して学位(学士)を取得したことです。二つ目は念願の専攻科棟が完成し、専攻科生の居室を含む、ほぼ全ての部屋で活動が開始されたことです。また、1期生修了生のうち12名が国立大学大学院へ進学(100%)し、14名が就職(93%)しました。残り1名は公務員受験を目指しています。進学・就職先などをみると、大学3年次編入で進学した本科同期の学生よりも恵まれた進路選択が出来たのではないかと感じています。

さて、平成23年度は2期生の活躍が期待されますが、多くの課題に直面しながら頑張っているところです。まず就職については、今年も氷河期の様相を呈して、一段と厳しさを増しています。7月以降も就活を続けなければならない学生が少なからずいます。専攻科生は大学卒扱いになるため、大学生との比較・競争があり本科生の就職活動とは異なるスタンスで臨まなければなりません。しかし、専攻科枠の推薦募集がある点では大学生に比べて恵まれています。進学についても多くの大学院で専攻科推薦枠があり、その制度を利用して内定した学生も出ています。学力試験で応募する学生の中には、大学院の試験期間が長いと、年間を通して受験に取り組む学生が何人かいます。

専攻科生にとって、就職・進学の取り組み以上に重要な試験が学位授与試験です。9月中には学修成果レポートをまとめて、10月の第1週に学位授与機構に提出します。12月に実施される小論文試験問題は学修成果レポートを基に出題されるため、学修成果レポートの内容が重要です。2期生からの特徴として、先輩の「学修成果」の内容とデータ、考察等が類似していると不合格判定になるので注意が必要です。また、教科書や参考書等に記載されている内容を学習しただけで、自身の問題意識、考察などに欠ける場合も不合格判定になっています。したがって、専攻科生は全員が夏休みを返上して、特別研究の内容を深く考察しながら学修成果レポートを作成することになります。その後、小論文試験対策、特別研究論文作成、学会発表、単位修得などに取り組み、息つく暇もなく修了式を迎えます。入学前は、本科含め7年間は長いと感じていた学生も、あっという間の短い2年間だったと感じるのではないかと想像します。多くの課題にチャレンジしながらの充実した2年間は、ほぼ大学院生の生活と同じです。この機会に学士を超える様々な能力を身につけて頂きたいと思っています。

JABEE 受審で見えてくるもの

JABEE 対応委員長 比嘉 勝也

沖縄高専では今年(平成23年)にJABEEを受審します。JABEEとは日本技術者教育認定機構(Japan Accreditation Board for Engineering)のことで、JABEE機構が技術系分野の学協会と連携し、大学・高専の教育内容が**社会の要求する知識や能力の水準を満たしているか**を審査し、その水準を満たす教育機関を技術者教育プログラム認定校としてJABEE認定を行っています。つまりJABEE認定とは**教育の質と量の保証**であると言えます。沖縄高専では4学科と1つの専攻科で構成されており、現在JABEE受審に向け各専門分野における技術者教育プログラム(機械システム工学、情報通信システム工学、メディア情報工学、生物資源工学)の策定(教育目標・教育カリキュラム・評価方法・学生の支援など)を行っています。沖縄高専の4つの技術者教育プログラムによって“学生が技術者として教育を受け、実社会に貢献できる知識技量を身につけることができる”、つまり沖縄高専での技術者教育の質と量が十分整っていることを社会に対して示す必要があります。

平成23年3月に本科卒業生の第三期生および専攻科の第一期生を輩出し、4月には第八期生が入学してきました。まだ歴史の若い高専ですが、沖縄高専の教育目標(本科・専攻科)を掲げ、社会に貢献できる技術者の育成を目指して学生の教育を実施してきました。沖縄高専における教育に関するさまざまな制度や仕組みも教職員の努力および学生の協力により整ってきました。しかしそれらの制度や仕組みが十分機能しているのでしょうか、不足が無いのでしょうか。また実社会がどのような技術者を求めているのかを感じることができているのでしょうか。実はこれらのことは高専の中に居る教職員には、なかなか見えない、感じられないところなのです。

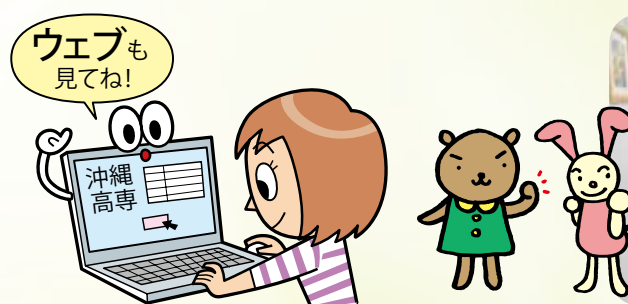
本科卒業生および専攻科修了生は、本校で学んだ知識を基礎として技術者として実社会でがんばっていることから、開校以来の沖縄高専での技術者教育は十分機能していると言えます。しかし社会は常に変化しており、沖縄高専での技術者教育が学生や保護者および社会の要求に対応できる仕組みを持ち、それらが機能して技術者教育の質と量が十分満足できる内容であることを今後とも示す必要があります。JABEE受審を機に沖縄高専として技術者教育を見つめ直すことで、ただ単に理想や目新しさに飛びつくことなく、**着実に学生を社会が求める技術者として教育し社会に送り出すという高専本来の進むべき方向**が見えてくるのではないのでしょうか。

学生相談室より

学生相談室長(併)メディア情報工学科准教授 西村 篤

学生相談室(以下「相談室」)は、学生の学校生活を学生の権利擁護の観点から支援するための組織で、カウンセリングと特別支援が主たる業務内容です。学校生活の中で、身近な友人や先生に気軽に相談しにくい問題を抱えた時、また疾病や障害による修学上の困難が生じている時、相談室を遠慮なく利用していただきたいと考えています。相談室は学校生活のセーフティーネットであり、常に学生の立場から問題の解決を考えます。学生のことについて保護者が利用することもできます。すべての相談において相談の秘密は守られます。

詳しい利用方法は、**本校のウェブサイト <http://okinawa-ct.ac.jp>** (トップページ>教育・学生生活>学生相談室)をご覧ください。★夏季休業中もカウンセリングを実施しています。★



学生相談室内の様子

図書館より

図書館では情報学、工学、自然科学等の専門書を中心として、学術雑誌、DVD や CD-ROM などの視聴覚資料、就職や進学に関する資料などを所蔵しており、蔵書目録はインターネットから検索することができます。

また、本校図書館の特色として、英語の多読用図書があります。「多読」とは、“やさしい本”から“たくさん”読む方法で、楽しく読んで英語を身につけることが目的です。本校では、開校当初から多読の授業が行われており、平成 20 年度に図書館内へ多読用図書が移設され、現在約 1 万 2 千冊を所蔵しています。土曜日も開館しており、本校の教職員・学生のみならず、広く一般の方々にも開放しています。どうぞお気軽にご利用ください。



○図書館の開館時間 (<http://www.okinawa-ct.ac.jp/toshokan/> も併せてご覧ください)

【通常期】平日:8:40～20:00 土曜:9:00～17:00 日曜・祝祭日:休館

【休業期】平日:8:40～17:00 土日・祝祭日:休館

○座席数:108席 (延面積:740㎡)

○蔵書冊数:約5万6千冊 (うち洋書約1万6千冊)、視聴覚資料約1,480点

○雑誌:約500種 (継続購入約90誌)

○新聞:8紙 (うち英字新聞2紙)

○学生への年間貸出冊数:42,351冊 (平成22年度実績)

○学外者への貸出:申請書に必要事項を記入し、身分証の提示、写真 (3×2.5cm) の提出が必要です
(図書館への連絡:直通0980-55-4037)

♪♪♪ 「保健室からこんにちは」 ♪♪♪

看護師 武村クニ子、岸本尚子

沖縄高専の保健室は2人の看護師が変則勤務で調整しながら、朝の始業時から部活動終了時間 (8:30～19:00) まで在室しています。

場所は、メディア棟2階 (事務室の上) で相談室と隣接しています。

保健室の中はベッドが3台、簡易ベッド2台あり体調不良の学生が一時的な休養で利用しています。計測器 (身長計、体重計、体組成バランス計、血圧計、視力測定器等) もそろっており、学生が休み時間に団体でやって来て測定を楽しんでいます。心身共に成長してほしいです。お喋りに来る学生もいます。あなたも来て見ませんか？ 保健室の業務は、

- ・学内における学生の傷病発生時の対応
- ・学内行事の救護班
- ・学生の定期健康診断
- ・学生の健康証明書の発行
- ・学校環境衛生基準の主な定期検査
(飲料水とプールの水質検査、空気・照明検査)
- ・災害共済給付の請求
- ・学生相談室との連携などです。



本校の看護師
(左: 武村さん、右: 岸本さん)

体調不良・心の不調・ストレスを抱えたままにせず、保健室の看護師に相談してみてください。学生のみならずの心に寄り添い、力になりたいと思いますので、元気の無い時には頼ってください。体育の時間や、部活中に起こった怪我に対しても対応していますので、お気軽にご利用下さい。

(tel:0980-55-4054 e-mail: hoken@okinawa-ct.ac.jp)

地域共同テクノセンター活動紹介

沖縄高専地域共同テクノセンターは、沖縄高専と地域との橋渡しを目指して地域社会との連携・交流の推進や教育研究の充実ならびに人材育成に取り組んでいます。

地域共同テクノセンターの年間事業は、年2回の高専フォーラム（沖縄高専フォーラム・情報交換会（11月・那覇市）、沖縄高専北部地域産学連携フォーラム・情報交換会（2月・名護市））、共同研究（年間10件以上）、受託研究・受託試験（年間10件程度）、技術相談（年間10件以上）、出前授業（年間19件）、公開講座・生涯学習講座等（年間3件以上）、各種展示会参加（沖縄の産業まつり、やんばるの産業まつり等）、高専施設見学会（9月に実施）、知的財産セミナー等を実施しています。

また、理科教育支援として、本島および離島地域小中学校への出前授業を積極的に実施・支援し、ものづくりの面白さと科学への興味を抱ききっかけ作りのお手伝いを行っています。

沖縄高専地域共同テクノセンターは、沖縄高専のもう一つの顔として地域のみなさまへ情報を発信していきます。



沖縄高専施設見学会



知的財産セミナー



沖縄高専フォーラム



沖縄の産業まつり

学生会より

学生会長 メディア情報工学科
4年 金城 匡



今年度より学生会長を務めております、メディア情報工学科4年 金城匡と申します。今年度の学生会は「創造する、沖縄高専」をテーマとして掲げ、学生が一丸となって、充実したより楽しい学校生活を送れる沖縄高専をつくることを目標とし活動を行っています。新しい活動に挑戦し、その活動、行事を通じて学年、学科を越えた交流が行えるようにし、技術者育成の一助となるよう、学生会一同精進してまいります。

役職	氏名
会長	金城 匡
副会長	宇江城 貴仁 伊礼 吉充
総務局長	松田 祥揮
広報局長	正木 彩花
風紀局長	親泊 由理
会計局長	比嘉 良鳳
渉外局長	佐渡山 史矢

平成23年度 沖縄高専学生会執行委員



体育祭



去る4月30日に本校グラウンドにて第6回体育祭が開催されました。

本科生800名が、リレー、玉入れ、騎馬戦、障害物競走と様々な競技に参加し優勝を争いました。



★★七夕祭

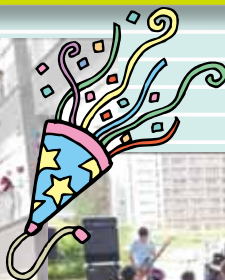


七夕にあわせ、本校では七夕祭が行われました。7月13日に体育館アリーナで七夕祭が開催されイントロクイズ大会、ダンス、ジャグリングが演じられました。

また、レストラン前には笹が設置され、多くの短冊がかけられました。



◆高専祭◆



今年で第7回を迎えることとなる高専祭。現在、実行委員会により準備が進められています。各学級、全力を出し切り、映像、屋台、お化け屋敷、ゲームなど個性あふれる出し物を用意します。皆さまのご来場をお待ちしております。

寮生会より



男子寮長
生物資源工学科 4年
玉城 祐貴

平成23年度、男子寮長の玉城です。

昨年から副寮長として寮の運営には関わっていましたが寮長となると別格で、昨年とは段違いの忙しさと日々奮闘しています。

4月5日は寮長としての勝手がわからず、月例役員会の司会や、寮生総会の質疑応答に四苦八苦していましたが、現在は少し慣れてきて、副寮長を指導するくらいの余裕が来ています。

しかしそれでも、まだまだうまく仕事が出来ない部分や、手の回っていないことは多々あります。後期からはそういった部分の改善に積極的に取り組んでいきたいと思っておりますので、何か要望等がございましたら、どんどん寮生会に意見してください。

私たちは、これからも皆様の寮生活が楽しいものとなるように一生懸命努力していきますので、皆様もご協力よろしくお願い致します。



女子寮長
生物資源工学科 4年
比嘉 一葉

はじめまして、平成23年度女子寮長の比嘉一葉です。沖縄高専の学生寮は、辺野古の美しい海と緑豊かな森に囲まれた場所にあり、現在女子寮には約140人の寮生が毎日楽しく暮らしています。

初めのうちは、家族以外の人たちと過ごす感覚や集団生活の中での規則、寮の日課等に戸惑うかと思いますが、しかし、それに慣れてしまえば個性豊かな友人たちと一生の思い出となるような楽しい寮生活を送れるはずです。さらに寮には優しい先輩がたくさんいますので、勉強から日頃の悩みまでいろいろと相談することができ、とても充実した寮生活になると思います。

私たち寮生会では、皆さんの暮らしが少しでも改善されるように、意見箱の設置や月ごとに役員会などで、寮内での意見交換や寮生活における注意や見直し等を行っています。

後期も女子寮生全員が快適な寮生活を送れるよう努めて参りますので、よろしくお願い致します。

寮生会活動報告

沖縄高専の学生寮は今年度で8年目を迎えました。4月3日(日)に開寮式、新入寮生対面式を行い、寮生活がスタートしました。寮生は本科、専攻科も含めて545人と昨年より少し減りました。4月は新寮生に対して、寮生活の指導が主な活動となりました。4月18日(月)には全寮生で学生寮避難訓練、5月16日(月)、17日(火)、19日(木)に地震対策マニュアルの読み合わせを行い、寮生活の安全面について確認を行いました。5月18日(水)には今年度初となる全体清掃、翌週の25日(水)には昨年度の決算と今年度の予算案を承認する寮生総会を行いました。6月15日(水)に2回目となる全体清掃、18日(土)に、企画広報委員主催の夏の寮生祭、7月6日(水)に3回目の全体清掃を行いました。今年度は、7月30日(土)、31日(日)に行われたサマースクールにて寮内見学ツアーを行いました。



入寮式



避難訓練

夏の寮祭

平成23年6月18日(土)

今年度は「音楽祭」として、バンドや吹奏楽部の演奏を中心におこないました。7月13日(水)には部屋番号による抽選会があり、多くの寮生がミニテーブルやタンブラーなどの景品に当選しました。



寮案内ツアー

平成23年7月30日(土)・31日(日)

7月2日(土)におこなわれたオープンキャンパスでは寮内での写真を掲示し、寮生活の様子を紹介しました。今年度は7月30日(土)・31日(日)のサマースクールで毎年恒例の寮案内ツアーを開催しました。沖縄高専への入学を志している中学生やその保護者のみなさんがラウンジや居室など、寮の施設を見学されていました。

★★★★ 留学生紹介 ★★★★★



生物資源工学科3年
ミージャセル アーサー
(ラオス出身)

私はラオスから来たアーサーです。よろしくお願いします。

皆さんはラオスって知っていますか。時々、友達にラオスとは、どこやどんな国など聞かれています。ラオスは東南アジアのタイとベトナムの間にあります。自然な国と言われています。ラオスは古来の国なので、漢字で書くと、老挝になります。ラオスで話します。ラオスは49の民族であるので、20言語ぐらい使っています。しかし、その中に70%仏教でラオスの言語を使っています。ラオスと言えば、綺麗なお寺。特にルウンパーバンの世界遺産町です。

私は日本に留学するのは高校ぐらいの夢でした。ラオスで知っている日本に留学する先輩がいた。そこで自分も留学したいと思いました。日本にきました。

初めて東京に来たところ、日本語が全然出来なくて困った。しかし、ラオスの先輩がいたので良かった。1年間、日本語勉強しましたが、今もまだです。

私、実は福島の高専に行くつもりだったのですが、原発の問題があって、この4月、沖縄高専にきました。これから3年間、皆さんと一緒に勉強頑張ります。仲間も良くなりたいと思います。皆と楽しみに高専生活を送りたいと思っています。



メディア情報工学科3年
ヘーワマーナゲ ラヒル ワナマル
(スリランカ出身)

スリランカから来ましたラヒルです。私は日本に留学して、今年の8月に一年半ぐらいになります。子供の時から家族と一緒にいたので留学して最初の一年間は本当に辛かったです。日本語も話せなく、日本食や日本文化にも慣れていなくて、すぐスリランカに帰りたかった時もありました。でも日本語学校の先生方や様々な国々から来た友達が優しくしてくれたおかげで留学生生活になりました。

現在私が通っている沖縄高専に入学したのは今年の四月でした。高専に入学する時は、留学してもう一年間も立っていたし、コミュニケーションできるぐらい日本語能力も持っていました。沖縄高専に来てからももう四か月間ぐらいです。日本人の学生の40人の中一人の留学生だったから最初は少しこわかったですが、すぐ友達できて、楽しくなりました。勉強が難しくて、困った時も先生方や友達に優しく教えてもらって本当に良かったです。クラスメートと一緒に、クラスマッチ、体育祭や授業をやって、この四か月は本当に楽しかった。今は「アー、夏休み みんなに会えないな一、残念」と思うぐらいに割合が高くなってきました。こんなにいい、最高の留学生生活を過ごしているので嬉しいです！

サマースクールを開催しました

本校では、7月30日(土)、7月31日(日)に平成23年度サマースクールを開催しました。

サマースクールは、中学生を対象に模擬授業を行うことで沖縄高専への理解を深め、進路選択の参考にしていただくことを目的としているもので、今年度は305名の中学生に参加していただきました。

当日は、一般科目(数学、国語、英語、社会から1科目選択)の授業の後、7月30日(土)は本校の4つの学科のうち情報通信システム工学科及び生物資源工学科の2学科、7月31日(日)は機械システム工学科及びメディア情報工学科の2学科に分かれ、学科ごとに実験・実習等を含む授業が行われました。

また、昼食時には本校レストランでの寮食体験を通じて、学生寮での生活の一端を体験していただきました。受講者からは「楽しかった」、「志望学科を決めるのに役立った」などの感想をいただきました。



数学(一般科目)の授業



機械システム工学科(機構学)の授業



情報通信システム工学科(電子回路で遊ぼう)の授業



メディア情報工学科(専門実習)の授業



生物資源工学科(電気泳動)の授業



レストランでの昼食風景

オープンキャンパス参加者数の推移について

学生課 教務係

参加者数推移



- ◆ 平成16年度…952人【中学生(3年生) 457,保護者 403,教員 89,その他 3】
- ◆ 平成17年度…690人【中学生 266,保護者 275,教員 50,その他 99】
- ◆ 平成18年度…617人【封筒配布者】(全体)
- ◆ 平成19年度…362人【受付確認数】(うち中学生数 136)
- ◆ 平成20年度…583人【中学生 201,保護者 222,教員 3,その他 157】
- ◆ 平成21年度…717人【中学生 272,保護者 269,その他 176】
- ◆ 平成22年度…672人【中学生 224,保護者 310,その他 138】
- ◆ 平成23年度…556人【中学生 184,保護者 272,その他 100】

※平成18年度については、細かい受付をせず、封筒配布数だけで積算しているため、内訳が出ていません。



伊東校長による学校説明



伊東校長による学校説明



学校説明会



多くの方にご来場いただきました



英語科・多読の授業



機械システム工学科・オリジナルグラス作成



機械システム工学科・工作教室



機械システム工学科・りんご爆破実験



生物資源工学科・カイコ観察



情報通信システム工学科・PC体験



情報通信システム工学科・プログラミング体験



情報通信システム工学科・電子回路体験



技術支援室・実習



技術支援室・実習

オープンキャンパス
多くの方にご来場
いただきました!



平成 23 年度沖縄県高校総体の結果について

平成23年5月21日(土)～6月4日(土)の期間で開催された「平成23年度沖縄県高校総体」において、本校からバスケットボール部、弓道部、剣道部、ハンドボール部、硬式テニス部、サッカー部、卓球部、陸上競技部、バドミントン部、ソフトテニス部及び自転車同好会が出場し、県内の各高校と対戦しました。大会では各部・同好会ともに健闘し、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。特に弓道部は男子個人戦で、自転車同好会は個人ロードレースで優秀な成績を納め、九州大会に出場いたしました。

平成23年度沖縄県高等学校総合体育大会における本校の競技別の結果は以下のとおりでした。会場まで応援に来ていただいた保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします。



競 技		競技結果		会 場
バスケットボール(男子)		1回戦敗退(沖縄工業高校 85-46)		コザ高校
バスケットボール(女子)		1回戦敗退(久米島高校 69-46)		前原高校
弓道(男子)		個人戦	長嶺将哉(80名中3位) 九州大会出場 上運天椋 予選敗退	奥武山運動公園弓道場
		団体戦	兼城優、稲福也美、照屋のぞみ 予選敗退	
弓道(女子)		個人戦	兼城優、兼城有沙、稲福也美、照屋のぞみ 予選敗退 山里美希 棄権	
剣道		団体戦	宮川慧、仲間礼文、岸本政樹、屋宜拓実 1回戦敗退	那覇高校
ハンドボール(男子)		2回戦敗退(糸満高校 25-10)		東風平運動公園体育館
ハンドボール(女子)		2回戦敗退(北谷高校 31-13)		那覇西高校
サッカー		1回戦敗退(美里高校 1-1 (PK4-3))		美来工科高校
テニス(男子)		団体戦	1回戦敗退(具志川高校 2-0)	奥武山運動公園庭球場
		ダブルス	宮下大地・仲間成吾 3回戦敗退/譜久原玲・酒井大成 2回戦敗退 伊良波秀斗・富東禎昌 3回戦敗退	
		シングルス	宮下大地 2回戦敗退(棄権)/譜久原玲 2回戦敗退	
テニス(女子)		団体戦	3回戦敗退(那覇高校 2-0)	
		ダブルス	松井くるみ・玉城由璃子 3回戦敗退/仲地彩未・新城真里奈 2回戦敗退 永山香奈子・仲宗根舞友 1回戦敗退	
		シングルス	松井くるみ 2回戦敗退/玉城由璃子 2回戦敗退	
ソフトテニス(男子)		ダブルス	祖慶、金城 2回戦敗退	うるま市石川体育館
ソフトテニス(女子)		ダブルス	城間、名城 1回戦敗退/仲間、山城 1回戦敗退	
卓球(男子)		団体戦	1回戦敗退(北部農林高校 3-1)	うるま市石川体育館
卓球(女子)		団体戦	1回戦敗退(普天間高校 3-0)	
バドミントン(男子)		団体戦	1回戦進出(浦添工業高校 3-0) 2回戦敗退(糸満高校 3-0)	名護市21世紀の森体育館
バドミントン(女子)		団体戦	1回戦敗退(南風原高校 3-2)	
陸上(男子)		田中創 100m予選1組 8位/岸本恵修 1500m予選5組 9位		コザ総合運動公園陸上競技場
陸上(女子)		田中成美 100m準決勝1組7位(予選突破)		
自転車		【個人】 宮城 個人ロードレース(40km) 4位 九州大会出場、1kmタイムトライアル7位、 3kmインディヴィデュアルパーシュート7位 江川 スプリント11位、1kmタイムトライアル12位 長尾 1kmタイムトライアル19位/洲鎌 1kmタイムトライアル18位 濱元 1kmタイムトライアル20位 【団体】 宮城、江川、長尾 4kmチームパーシュート3位		県総合運動公園・大保ダム

平成 23 年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会の結果について

平成23年7月8日(金)～17日(日)の期間で開催された「平成23年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会」において、本校からバスケットボール部、ハンドボール部、水泳部、硬式テニス部、硬式野球部、サッカー部、卓球部、陸上競技部、男子バレーボール部、バドミントン部及び剣道部が出場し、九州地区の各高専と対戦しました。大会では各部ともに健闘し、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。特に女子バスケットボール部は優勝、水泳部(女子)は200mリレー、100m平泳ぎ及び50mバタフライで2位、硬式テニス部は女子団体戦で優勝を飾っております。女子バスケットボール部は東京都、水泳部は千葉県で開催される全国大会に出場する運びとなり、更なる活躍が期待されます。



競 技	競技結果	会場	備考
バスケットボール(男子)	【予選リーグ】…沖縄106—38熊本(熊本)/沖縄87—61鹿児島 【決勝トーナメント】…沖縄64—75北九州	佐世保市体育文化館	ベスト4
バスケットボール(女子)	【予選リーグ】…沖縄78—43佐世保/沖縄72-39都城 【決勝リーグ】…沖縄82—38久留米/沖縄86-28熊本(熊本) 九州沖縄地区大会優勝	佐世保総合グランド体育館 佐世保市体育文化館	全国大会準優勝
ハンドボール(男子)	【予選リーグ】…沖縄26-32北九州/沖縄37-18鹿児島	久留米市みづま総合体育館	
水泳(男子)	【予選】…男子200m平泳ぎ 錦波9位/男子100m平泳ぎ 錦波13位 【タイム決勝】男子800m自由形 具志5位/男子400m自由形 具志4位		
水泳(女子)	【予選】…女子100m自由形 金城(優) 5位、武井6位/女子50m背泳 山城4位、金城5位 【タイム決勝】…女子100m平泳ぎ 金城(優) 2位/女子50mバタフライ 山城2位、武井5位 女子200mリレー 武井・金城(優)・金城(朱)・山城2位 【決勝】…女子100m自由形 金城(優) 5位、武井7位/女子50m背泳 山城4位、金城(朱) 7位	福岡県立総合プール (アクション福岡)	女子200mリレー 2位 女子100m平泳ぎ 2位 女子50mバタフライ 2位 (上記3種目は全国大会出場)
テニス(男子)	【団体戦】…沖縄0-3北九州 【シングルス】…知花6-2久留米/知花3-6北九州/宮下6-7北九州/前蔵4-6鹿児島/糸数6-7都城 【ダブルス】…比屋根・前蔵4-6佐世保/上原・宮下2-6鹿児島/仲村果・金城6-1都城/仲村果・金城5-7大分/糸数・知花6-2有明 糸数・知花6-2久留米/糸数・知花4-6佐世保	熊本県民総合運動公園 パークドーム	ダブルス 糸数・知花 ベスト8
テニス(女子)	【団体戦(オープン)】…沖縄3-0大分/沖縄2-1有明 【シングルス】…宮城6-1熊本(八代)/宮城2-6佐世保/仲地6-3大分/仲地2-6有明 【ダブルス】…宮城・仲地6-0佐世保/宮城・仲地6-1大分/宮城・仲地1-6有明/松井・玉城1-6久留米		団体戦 優勝 (オープン戦のため、全国大会出場なし) シングルス 宮城ベスト4 ダブルス 宮城・仲地 ベスト4
野球	沖縄10-1大分/沖縄6-7鹿児島	宜野座村野球場	
サッカー	沖縄0-4有明(前半0-3 後半0-1)	北九州市本城陸上競技場	
卓球(男子)	【団体戦】予選リーグ…沖縄3-1熊本(熊本)/沖縄0-3佐世保 【シングルス】…吉田 ベスト16/金城 1回戦負け/眞玉橋 1回戦負け/原田 1回戦負け/花城 1回戦負け/阿野 1回戦負け 【ダブルス】…眞玉橋 1回戦負け/原田 1回戦負け	小佐々スポーツセンター	
卓球(女子)	【団体戦】…沖縄 一回戦負け 【シングルス】…山城 ベスト8/渡保 ベスト8/町田 ベスト8/白久 一回戦負け 【ダブルス】…白久・渡保 一回戦負け/町田・山城 一回戦負け		
剣道	【個人戦】…屋宜0-2北九州/宮川0-2都城/比嘉1-2北九州/岸本0-2大分 【団体戦】…予選リーグ敗退	長崎県立武道館	
陸上(女子)	100m 田中決勝4位	久留米総合スポーツセンター陸上競技場	
バレーボール(男子)	【予選リーグ】…沖縄19—25有明・沖縄13—25有明/沖縄21—25都城・沖縄13—25都城	北九州市立総合体育館	
バドミントン(男子)	【団体戦】…沖縄1-2有明 【シングルス】…屋良2-0鹿児島/屋良2-0大分/屋良1-2久留米/平安山0-2北九州/福原0-2熊本(熊本)/新川2-1熊本(八代) 新川0-2北九州/玉城2-0大分/玉城2-0鹿児島/玉城0-2北九州/金城1-2都城 【ダブルス】…屋良・玉城2-0大分/屋良・玉城0-2北九州/倉山・福原0-2久留米/新川・大嶺2-0鹿児島/新川・大嶺2-0佐世保 新川・大嶺1-2都城	久留米市みづま総合体育館	シングルス 屋良、玉城 ベスト16 ダブルス 新川・大嶺 ベスト8
バドミントン(女子)	【団体戦】…沖縄1-2久留米 【シングルス】…久貝2-0北九州/久貝0-2熊本(八代)/川満0-2北九州/瑞慶覧1-2有明/上原2-0鹿児島/上原0-2有明 【ダブルス】…富山・川満0-2都城/瑞慶覧・久貝2-0久留米/瑞慶覧・久貝2-0北九州/瑞慶覧・久貝1-2有明		ダブルス 瑞慶覧・久貝 3位

平成 24 年度からの進級要件の変更について

本校は、平成 24 年度から教育の質の保証を目的として進級要件を変更します。

1 年



2 年



3 年



4 年



5 年



卒業

未修得単位 10 単位以下かつ 3 科目以内の場合、仮進級できます。

【変更点】これまでは科目数の制限はありませんでした。

未修得単位 10 単位以下かつ 3 科目以内の場合、仮進級できます。

【変更点】これまでは科目数の制限はありませんでした。

1、2 年の単位を全て修得かつ未修得単位 4 単位以内の場合、仮進級できます。

※未修得単位数が 10 単位以内の場合は 3 月に特別に追認試験を受験できます。

ただし、欠課時間が 1/5 を超える科目は受験できません。

【変更点】これまでは 10 単位を超えても追認試験が受験できました。また、追認試験の受験資格に欠課時間の制限はありませんでした。

未修得単位 4 単位以下の場合、仮進級できます。

※未修得単位数が 10 単位以内の場合は 3 月に特別に追認試験を受験できます。

ただし、欠課時間が 1/5 を超える科目は受験できません。

【変更点】これまでは 10 単位以内であれば進級できましたが、3 月に追認試験は受けられませんでした。

卒業に必要な全ての単位を修得すること。

※未修得科目があった場合は 3 月に特別に追認試験を受験できます。

【変更点】変更はありません。

【未履修】……欠課時数が 1/3 を超えた科目は未履修となります。未履修の科目は追認試験を受験できません。必修科目や修得単位を満たさない選択科目が未履修となった場合はただちに原級留置となります。【変更点】変更はありません。

【仮進級】……修得すべき単位を残したまま進級要件を満たして進級することを仮進級といいます。未修得の科目は進級後に追認試験によって単位を修得しなければいけません。【変更点】変更はありません。

【追認試験】……追認試験は仮進級後に年 2 回受験できます。1 回目は 5～10 月に行い、一定の成績がとれなかった者は 2 回目（11～3 月）にもう一度受験できます。ただし、1 回目に受験しなかった人は 2 回目の追認試験を受験できません。

【変更点】これまでは 1 回目に受験しなくても 2 回目の受験ができました。

● 平成 23 年度人事異動について ●

< 4 月 1 日付け異動 >

【採用】 生物資源工学科 准教授 田中 博
総合科学科 講師 和多野 大
機械システム工学科 助教 安里 健太郎

【転入】 総合科学科 准教授
森田 正亮 (長岡技術科学大学物質材料系 准教授)
学生課長
藤元 高德 (米子高専 総務課長)
学生課課長補佐
城間 弘充 (琉球大学農学部総務係長)
総務課総務係長
野原 茂 (琉球大学医学部事務部総務係長)
学生課教務係員
運天 誠 (琉球大学学生部教務課大学院係員)

【昇任】 総務課課長補佐 (総務) 宮成 隆明
技術支援室 技術専門員 藏屋 英介
総務課財務係主任 豊川 雅喜

【配置換え】 総務課長
南部 元義 (学生課長)
総務課人事係員
又吉 瞳 (総務課図書情報係員)

< 7 月 1 日付け異動 >

【転出】 琉球大学医学部経営企画課再開担当専門員
鉢嶺 元安 (総務課課長補佐 (財務))
琉球大学学術国際部研究協力課専門職員
名城 道広 (総務課研究連携係長)
琉球大学施設運営部計画整備課専門職員
座波 世一 (総務課施設係長)
琉球大学監査室業務監査係長
稲福 真 (学生課寮務係長)
琉球大学財務部経理課物品調達係員
尾方 亮日 (総務課契約管理係員)

【転入】 総務課課長補佐 (財務)
久保田 隆弘 (琉球大学監査室会計監査係長)
総務課総務係長
比嘉 桂 (琉球大学学術国際部研究協力課専門職員)
総務課施設係長
大城 林 (琉球大学施設運営部計画整備課計画整備第二係長)
学生課寮務係長
知花 恭史 (琉球大学総務部総務企画課総務係員)
総務課研究連携係員
池原 智子 (琉球大学学術国際部地域連携推進課地域連携推進係員)

【昇任】 総合科学科 准教授 木村 和雄
総合科学科 准教授 高嶺 司
総務課課長補佐 (研究連携) 野原 茂

< 8 月 1 日付け異動 >

【配置換え】 学生課教務係主任 豊川 雅喜 (総務課財務係主任)
総務課財務係員 佐加伊 裕也 (学生課学生係員)
学生課学生係員 城間 義尚 (学生課教務係員)

< 9 月 1 日付け異動 >

【転出】 舞鶴高専教育研究支援センター 技術専門職員
釣 健孝 (技術支援室 技術専門職員)

【転入】 技術支援室 技術職員
畑 亮次 (舞鶴高専 教育研究支援センター 技術職員)

平成23年度(後期)行事予定表

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 土		1 火	木曜日の授業	1 木	予備日	1 日	元旦	1 水	外国人学生対象第3学年編入学試験合格判定 第三回定期学生会議 専門実習選抜確約書提出期限	1 木	
2 日		2 水		2 金	予備日	2 月		2 木		2 金	卒業認定会議
3 月		3 木	文化の日	3 土		3 火		3 金		3 土	
4 火	消防訓練(予定)	4 金		4 日		4 水		4 土		4 日	
5 水		5 土		5 月		5 木		5 日		5 月	
6 木		6 日		6 火		6 金		6 月		6 火	
7 金		7 月		7 水		7 土		7 火		7 水	入学説明会
8 土		8 火		8 木		8 日	開寮	8 水	予備日	8 木	進級認定会議
9 日	ロボットコンテスト九州・沖縄地区大会	9 水	学生寮月例大掃除	9 金		9 月	成人の日 開寮式	9 木	本科後学期期末試験 専攻科後学期期末試験	9 金	
10 月	体育の日	10 木	金曜日の授業	10 土		10 火		10 金		10 土	
11 火	TOEIC IP 試験(4年次)	11 金	高専祭代休	11 日		11 水	餅つき行事 (学生会・国際交流委員会共催)	11 土	建国記念の日	11 日	
12 水	第二回定期学生会議	12 土	高専祭 入試説明会(本校)	12 月	推薦及び専門実習選抜 願書受付	12 木	予備日 学習到達度試験	12 日		12 月	
13 木	TOEIC IP 試験(5年次)	13 日		13 火		13 金		13 月		13 火	
14 金		14 月	高専祭代休	14 水		14 土	推薦選抜試験	14 火		14 水	
15 土		15 火		15 木		15 日		15 水		15 木	
16 日		16 水	月曜日の授業	16 金		16 月		16 木	試験返却日 学生寮居室点検・清掃	16 金	
17 月		17 木		17 土		17 火	木曜日の授業	17 金	専攻科修了認定会議 終業式	17 土	卒業式 専攻科修了式
18 火		18 金	専門科目中間試験	18 日	学位授与試験(小論文)	18 水	後学期クラスマッチ (学生会主催)	18 土	開寮式	18 日	
19 水	学生寮月例大掃除	19 土		19 月		19 木	推薦選抜判定会議	19 日	学力選抜及び帰国子女選抜試験 開寮	19 月	
20 木		20 日	ロボットコンテスト 全国大会	20 火		20 金	推薦選抜判定結果通知	20 月	学力及び帰国子女選抜試験採点 臨時休業日 完全閉寮・整備	20 火	春分の日
21 金		21 月		21 水	クリスマス関連イベント (学生会主催)	21 土	専門実習選抜試験	21 火	臨時休業日	21 水	
22 土		22 火		22 木	学生寮居室点検・清掃	22 日		22 水	学力選抜及び帰国子女選抜試験 判定会議	22 木	
23 日		23 水	勤労感謝の日	23 金	天皇誕生日(授業日)	23 月		23 木	学力選抜判定結果通知	23 金	
24 月		24 木	沖縄高専フォーラム	24 土	閉寮式	24 火		24 金	学位授与と機構へ専攻科 単位修得証明書送付期限	24 土	
25 火		25 金	水曜日の授業	25 日	開寮	25 水	専門実習選抜判定会議 学生寮月例大掃除	25 土		25 日	
26 水	地域清掃(学生会主催)	26 土		26 月	天皇誕生日の振替 完全閉寮	26 木	専門実習選抜判定 結果通知	26 日		26 月	学年末休業日
27 木		27 日		27 火	冬季休業	27 金	推薦選抜確約書提出 期限	27 月	臨時休業日	27 火	
28 金		28 月	後学期中間試験	28 水		28 土		28 火		28 水	
29 土	県高校新人体育大会	29 火		29 木		29 日		29 水	学力選抜確約書提出期限	29 木	
30 日		30 水	3年次研修旅行 予備日	30 金		30 月	学力及び帰国子女選抜 願書受付			30 金	
31 月				31 土		31 火				31 土	
・開寮 9月24日 ・開寮式 9月25日 ・後学期授業開始 9月26日		・校内美化(学生会主催・高専祭前)		・冬の寮祭(寮生会) ・学内合同企業説明会 (4年次・専攻科1年次) ・校内美化(学生会主催・冬季休業前) ・ツデーマーチ(学生会主催) ・ブックハンティング (学生会図書委員イベント)		私費外国人留学生試験		・校内美化(学生会主催・年度末) ・北部地域産学連携フォーラム(予定)		・卒業式2部式(学生会主催) ・教育・研究情報交流会(予定)	

教務系行事 学生系行事 学生寮行事 学生会行事